

図書館システムの変更について

附属図書館システム管理係 巖本 康治

図書館では11月にコンピュータシステムを入れ換えます。現在のシステムは平成3年11月から稼働しているもので、昭和63年2月に初めて図書館用コンピュータを導入してから2回目の変更です。これは、学術情報システムの計画の枠内で、地域センターとして活動するための資源として文部省によって予算化されたものです。

学術情報システムとは、

- (1) 学術図書・学術雑誌の網羅的分担収集を推進し、そのコレクションを全国的共有資源として共同利用する。
- (2) 学術情報を検索するために二次情報データベースを活用する。
- (3) わが国独自のデータベースを形成する。

といった活動をとおして、学術情報の円滑な流通をはかろうとする施策です。

図書館では、このコンピュータシステムを利用して、目録作成、目録検索、貸出管理、雑誌管理などの利用者サービスと図書館業務をシステム化してきました。

前回のシステム変更から4年近く経過するうちに学術情報センターのシステムも進展し、SINETと呼ばれるTCP/IPによるLAN間通信用ネットワークも運用が開始され、学内のLANも本格的に整備されました。さらに、利用者の情報要求は日増しに高まる一方なので、このたびシステムを入れ換え、グレードアップをはかりました（現在のシステムは富士通のFACOM M730/8、新システムはM730/10です）。

目録作成のためには学術情報センターのオンライン共同目録システムを利用しています。このネットワークには、現在、約400の国公私立大学や研究機関・図書館が参加しています。

オンライン共同目録システムを利用すれば、同じ図書について先に他の図書館が目録データを作成してくれていた場合、それをそのまま使うことができるので、目録作成の作業量を大幅に軽減することができます。さらに、その結果として学術情報センターに蓄積されるデータベースは全国の大学の総合目録となって、相互貸借、文献複写システム（学術情報センターILLシステム）に組み込まれ、資料の共同利用のための貴重な情報源として非常に有効に活用されます。

オンライン共同目録システムを利用して作成した金沢大学所蔵の図書・雑誌の目録データベースは総合情報処理センターのディスクファイルに格納されています。

この目録データベースを検索するシステムを図書館ではOPAC（オーパク Online Public Access Catalog）と呼んでいます。総合情報処理センターにアクセスできるパソコンがあれば学内外のどこからでも検索できます。

今回の入れ換えに際して、端末を増やすことに力を注ぎました。本学の図書館組織は全キャンパスに分散しているので、どの図書館・図書室からもシステムを使えるようにする必要がありますからです。

端末（パーソナルコンピュータ）は34台から44台（買取品を含む）に増えます。

ホストコンピュータと端末はすべて学内LANに接続されます。たとえば、工学部分館の貸出システム用端末はLANを経由して角間中央館のホストコンピュータにつながります。また、中央館のOPAC用端末はLANを経由して総合情報処理センターのコンピュータにアクセスします。

端末がLANに接続されると、インターネットを利用して、いながらにして学内はもとより世界中のコンピュータ資源を利用することができます。このことは、これからの図書館サービスを展開するうえできわめて重要なこととなるでしょう。

このほかにも、新しいコンピュータシステムでは次のようなサービスを予定しています。

- (1) CD-ROMデータベースを離れたキャンパスから検索する。
- (2) 電子メールで文献入手の申し込みを受け付ける。
- (3) 電子メールで参考質問を受け、調査結果を電子メールで返す。

図書館では、新しいサービスをあれこれ模索しています。利用する側からのアイデアをいろいろおきかせ下されば幸いです。

システム構成図

